

NIPPOが埼玉県川口市から受注し、舗装改修工事を行った川口オートレース場の仕上がりが好評を得ている。検査数値には出ないわずかな段差であっても事故につながりかねないため、同社は検査員を含めて通常の4倍の人員を投入。万全の施工体制を構築すると同時に、施工機械を1周停止させずに稼働させ、鏡面のような平坦性を確保した。その結果、竣工検査に相当する選手による試走では、「完璧」と高く評価されたという。

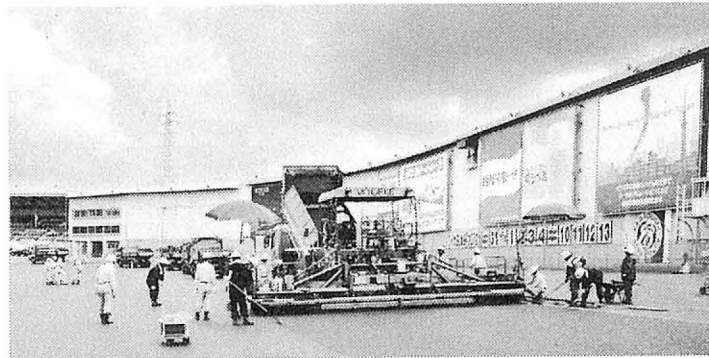
オートレース場は、約5年ごとに改修工事が行われる。川口では、6〜10月にかけて、走路のほか、内部と外部の回避帯の切削オーバーレイや一部の打ち換えなどが行われた。工事を開始するに当たっては、選手会から▽平坦性の確保▽滑らない▽良好な水はけ▽石が飛ばないといった要求が出た。平坦性については、選手の生命にかかわるだけに、「公道以上の品質が要求された」（NIPPO）という。

竣工検査には数値で報告する項目があるものの、最終的な合否は、試走した選手によって判断される。「人の感覚や感性からくる数値にならない要求に応える必要がある。舗

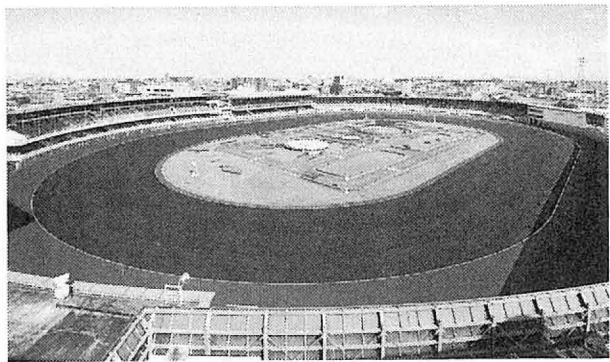
川口オートレース場舗装改修

装会社としての総力を結集する」（同）。骨材は数十社の製品から吟味。現場には選抜した熟練オペレーター・作業員を配置し、含水比をはじめ検査の頻度・項目も増やした。精度の確保が最大のテーマだったため、当初は情報通信機器を駆使して施工機械を自動制御する情報化施工の適用を検討した。ただ細やかな操作を連続して行っていく必要があるため、手動操作による従来のマニュアル方式での実施を決めた。施工前には、作業の従事者全員で勉強会を行

NIPPO 4倍の人員投入



施工の様子。段差の発生リスクを排除した



竣工後

い、ポイント映像を交えて確認。わずかな不陸の発生をも避けるため、フィニッシャーに積載する台材の量は常に一定に保った。

選手会から「完璧」評価

台材トラックのドライバーには、フィニッシャーと50㌔の間隔を保つよう要請するなど、段差の原因となるリスクの排除を徹底。フィニッシャーやローラーなどの機械は停止させずに1周させ、機械の後には不陸を修正する部隊が続いた。

走路は計4日、内部と外部の回避帯はそれぞれ1日で舗装作業を実施。舗装の表層厚は4㌔。走路のうち、競走車の走行軌跡が残る「黒潮ライン」については、縦・横それぞれのジョイントが分らないほどの状態に仕上げたという。

川口オートレース場は、売り上げ規模が全国1位の公営競技場。選手の技量も高く、「結果が数字だけで表れない仕事に『完璧』という評価をいただいた。当社にとって最高の褒め言葉になった」とNIPPOの担当者。オートレース場関連の年間工事量は限定的なもの、「公道以上のレベルの舗装工事」を成し遂げた実績を受注活動に生かしていく方針だ。